

The 3rd World Kudo Cup 2025 大会に同行して

大道塾 塾頭
盛岡支部 支部長 師範
狐崎 一彦

去る7月5日・6日ブルガリア共和国ブルガス市において、第3回ワールドカップ大会が開催された。この一向に自分が団長（審判員）として同行することになった。昨年の全日本ジュニア選手権大会の優勝、準優勝者を筆頭にまた、一般部から選手を選抜しチームジャパンを結成、審判員、事務局、同行者等約60名近い一行が羽田空港第3ターミナルに集合出発式を行った。羽田を定刻どおりフライト、イスタンブール空港にて乗り継ぎ、その後ソフィア空港経由、長い旅となったが無事ブルガス市に到着した。フライト中、狭い座席、同じ格好による姿勢は相変わらず慣れることもなく、腰や背中などあちこち痛いく相変わらずのことだが初のブルガリアに行く楽しみが旅の心地良さを促した。ブルガス市着となる夕方、関係者、審判員一同、ブルガス市の副市長一行から手厚い「晚餐タベの会」に招待を受けた。国、言葉は違えども軽やかで流暢な雰囲気と趣のある絵に描いたような風景が、なんとも心地よく酒と料理に酔いしれ併せて食事が進んだ。（注：翌日自分を含めた数名が腹の調子が悪くなるアクシデント、だれもこんなこと予想しなかつただろうに、笑 なんとか、事なきに済んだことが幸いでした、何が悪かったのか・・・）



さて、いよいよ、7月5日大会初日を迎えた。日本選手団は旅の疲れもみせず皆、元気な様子。自分を含めた数人は、その後なんとか大きく体調を崩すこともなく大会運営に従事できたことが幸いでした。大会途中、故東先生のことを頭に浮かんだ。こうして海外遠征に何度か先生と同行し異国の地で様々な経験や珍事に遭遇？したことなど改めて考えると大変懐かしい。壁面にあった東先生がどうも自分をにらみつけているような錯覚を覚えたのは自分だけだろうか。自分は本大会ジュニアの部の主審を

受け持つことになった。主審、副主審の交代ではウクライナのアントンと適宜行い、副審にリカルド、アレクセイ、カレン、この5名による審判チームの編成による試合をジャッジした。我が審判チーム、最初多少の不慣れさもみられたが、徐々にジェスチャーによる会話も弾み内容を理解したうえで良きチームワーク（連携）となり公正に判定を出せたことは審判員として責務を果たし安堵に繋がった。ここ数年のうちに外国の審判員の向上が目立った大会ともなった。但し、選手の入退場による礼法があまりにできていないことが残念でならない。これは、国内の日本人選手も同様に言えることにもなるため各支部で徹底指導する必要がある大切な課題である。日本人選手は善戦がみられたと思う。ここでは試合内容は控えるが、一言コメントするならもう少し気合い入れて大きな声を出すということも大切な一つと考える。先人から継承する武道とはそういうものであるため今後心してほしい。



大会2日目、惜しくも負けた選手、悔しさに泣き崩れる選手もみられたが、この大会出場に賭ける意気込みなど伝わる様子があちこちから伝わってきた。国を揚げての応援、指導者やコーチも絶賛極まる場面もみられた。SNSが当たり前前の昨今、様々な情報が飛び交う動画配信は指導者がこの場で、気持ちがあかぬならないではいけないそんな様子も多々あった。また、印象となる決勝戦に自分が遭遇した。日本人同士による決勝、どちらが勝っても喜ばしいこと。仮に、A選手、B選手としよう。双方突き蹴りの応酬、判定は引き分け延長となった。しかしながら、B選手に少し部がみられる。このまま行けば内容から自動的にB選手に旗が上がり判定なるか・・・終了2～3秒前くらいか、A選手の上段回し蹴りが相手にヒットした、この結果から効果ポイントによる逆転結果となった。これこそあっぱれ！逆転となる試合結果となった。最後まで試合は諦めず、こうした試合は、過去にも例があるが本人も嬉しかった様子、清々しい勝ちっぷりに自分からも後からエールを送った。また、この度の大会審判員の命を受け、久々ゆえ自分の道場で大きな声を出すなど当時の主審をした感触を思い出しながら密かに所作など練習もしてきた。まずは、なんとか審判員として役目を果たし安堵しました。笑 今回のワールドカップブルガリア大会全般的に日本人選手の活躍が多分にみられた。3位決定戦も組み込まれ過去にこうした企画もあつたり良か

ったと感じた。選手団は大変長い旅行行程とはなったけど、皆さまにはとても貴重な体験になったことでしょう。特に、ジュニアの皆さんはこれからの時代を担う世代、経験から学ぶ大切さを持ち益々の奮闘ぶりに期待したい。

結びに、現在、国際情勢や経済動向等不安視されるなか、ブルガリアに一同が集結し、本ワールドカップを開催できたことは意味深い貴重なことだと思う。空道を通じ人種や地域問題を超え、一つになれたことが大道塾の理念に叶った活動になったことは誠に喜ばしいこと。今後、日本と海外支部との連携、友好に繋がる国際大会でした。これを機に、参加者皆さんと大道塾各支部のご発展、ご健勝をご祈念申し上げ、この度の団長としての報告（お礼）といたします。また、大会等でお会いしましょう。

